

THE RECORD

RIAJ 社団法人 日本レコード協会

平成8年8月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN TEL 03-3541-4411 (代)
Fax 03-3541-4460

平成8年8月号 No. 441

行政改革委員会 規制緩和小委員会

規制緩和に関する論点を公開

行政改革委員会規制緩和小委員会
(座長・宮内義彦氏)は、7月25日、
著作物の再販制度の存続問題を含む
全38項目にわたる論点を、「維持」
「緩和」の両論併記の形で「規制緩
和に関する論点公開」として公表し
ました。(次頁に関係部分の抜粋掲
載)

載)

この論点公開に対し、当協会は、
同日直ちに関係マスコミ等に協会長
談話を発表しました。(文末に全文
掲載)

今後、規制緩和小委では、11月ま
でに関係業界団体や消費者団体等と
公開討論の実施、12月初旬に規制緩
和に対する意見書を作成、同月中旬
に行革委を通じて首相へ意見書を提
出、翌97年3月末、政府が規制緩和
推進計画の改定を実施する予定とな
っています。音楽業界が一体と
きたといえます。音楽業界が一体と

なり、レコード、音楽用CDの再販
制度の意義と必要性を、一般ユーバ
ーに対し、音楽文化懇談会等を通じ
て、より一層のPR、啓蒙活動を行
つていく必要があります。

日本のレコード産業は、一九五三
年の独占禁止法改正以来40年以上に
亘り、再販制度のもと、一貫して消
費者利益の観点から文化の普及と健
全な市場秩序の維持に努め、現在に
至っています。特に日本のレコード
市場は、大衆音楽や伝統芸能から世
界各国の最新音楽・民族音楽に至る
までを幅広く扱うという、諸外国に
は例のない特徴を有し、1年間の發
売種類数は世界最大のレコード市場
である米国の3倍にも及んでいます。
その結果、日本では、レコード、音
楽用CDの消費者は、多品種のなか

から好みにあつた商品を自由に選択
することができ、諸外国とは全く異
なる「恵まれた音楽環境」が保証さ
れています。

また、一九八二年の発売以来、音
楽用CDの価格は継続的に下ってお
り、各種商品が値上がりしているな
かで、物価の優等生といつても過言
ではありません。しかも、硬直的と
いわれた価格帯は、通常のアルバム
CDについていえば、1,000円
~3,600円までの多種多様な価
格で発売され、消費者にとって大き
なメリットをもたらしており、音楽
用CD等の再販制度が、市場構造上、
大きな障害となつているとは考えら
れません。

この度の論点公開における規制緩
和の意見は、市場原理のみに立脚し
た視点から脱することなく、我々が
これまで主張してきたことが、必ず
しも十分に理解されているとはい
ません。従つて、今後予定されてい
る規制緩和推進計画の改定に当たつ
ては、音楽用CD、レコードを含む
著作物の再販制度の重要性が再度認
識され、適切な措置がとられるこ
とを切望しております。

以上

社団法人 日本レコード協会会長
音楽文化懇談会 代表幹事
高野 宏

音楽用CD、レコードの再販擁護のための50万人署名運動に参加しよう!! お問い合わせは広報室まで

行革委・規制緩和小委／規制緩和に関する論点公開 音楽用レコード・CD等に関するまとめ

◇印 ライン部分が昨年7/27の論点公開文書に追加されている。

論 点	規 制 維 持 の 意 見	規 制 緩 和 の 意 見
商 品 特 性	<p>◇音楽用レコード・CD等は、新聞、書籍、雑誌と同様、重要な文化的伝達手段であり、法制化（昭和28年）当時から、再販が認められており、平成4年度には、音楽用CDの再販の必要性が、公正取引委員会により正式に認められた。</p> <p>◇他国との比較は、再販制度の有無だけでなく、その国の制度全体から行うべきもの。日本では、欧米の主要国では不公正な事業として事实上禁止されている「貸レコード業」が法的に認知され、数多く存在しており、レンタルすることもでき、大変惠まれた環境にある。</p> <p>◇CD等は若者の集客力の強さに特徴があり、他の商品で総合的に利益を上げられる大型商業施設のレコード売場がおとり廉売を行うなど、互いに値引き販売で集客競争に走る。</p> <p>◇再販制度により販売価格が守られ、仕入れ原価が保証されるため、文化性は高いが需要の少ない伝統芸能、教育音楽CD等も店頭に展示され、消費者の選択の利便が図られる。</p>	<p>◇ほとんどの商品について違法な再販売価格維持制度を、音楽用CD等についてのみ例外扱いすべき程の特別な商品特性はない。</p> <p>◇また、映像関係のもので再販が認められない一方で、音楽関係のものだけが認められる必然性はない。</p> <p>◇現在、主要国でCD等音楽関係のものの再販を認めている国はない。</p> <p>◇「貸しレコード業」が認められていることと、再販を認めることとは、何の関係もない。むしろ、CD等の価格が高いが故に、日本では「貸しレコード業」が成立している。</p> <p>◇CD等は、その商品特性により、購入の反復性及び商品間の代替性が少なく、全ての商品がおとり廉売の対象とはなることは少ない。</p> <p>◇また、仮におとり廉売の対象となつたとしても、他の商品に比し、特に公益を害する特例の事情を認めにくく、特別に再販を認められるべき根拠がない。</p> <p>◇現在でも各商品について小売店マージン率が一律に設定されているため、小売店が売れ行きの遅い商品を取り扱うインセンティブはない。</p>
再 販 の 弊 害	<p>◇CD等の価格が不当に消費者の利益を害していることはない。邦楽CDの価格が洋楽CDに比べて高いのは、大量の世界マーケットを対象とした洋楽と違い、邦盤は殆どが国内市場のみで、相対的に少量生産となるため。</p> <p>◇邦盤12cmCDの価格帯は1,000円から3,600円まで幅広い。</p> <p>◇レコードは、趣味・嗜好性の高い商品であり、需要はアーティストや作品により大きく変動する。上位5社の構成社や順位は毎年変動しており、寡占的な構造があるとは言えない。</p> <p>◇レコード会社は、小資本で会社を設立できるため、外資を含め新規参入が活発であり、アーティストの发掘や企画・販促等の面において熾烈な競争を展開している。</p>	<p>◇洋楽CDの値下げ傾向に対し、邦楽CDの値段は、全てのCDで見れば1,000円から3600円（12cmCD）と幅広いものの、主力商品は公正取引委員会の調査結果でもわかるとおり、狭い価格帯のなかで設定されるなど硬直的であり、消費者の利益を害している。</p> <p>◇CD等は、メーカー数が比較的少なく、（社団法人日本レコード協会会員30社）、上位3社の累積集中度は約37%と寡占化の程度が比較的高く、自由な競争が損われているおそれがある。</p> <p>◇再販制度の問題は、流通段階での競争を制限すべきか否かの問題であり、仮にレコード会社間の競争が十分に行われても、その是非が問われるべき問題。再販制によって、小売店は価格を自由に決める権利を取り上げられており、小売店間の競争が制限されることによって革新的な小売店及び消費者の利益が損われている。</p>
再販廃止の影響	<p>◇流通コストがダイレクトに価格に反映され、文化の地域間格差が生まれ、地方の消費者が不利益を被る。</p> <p>◇レコード店間での価格競争が熾烈化し、売れ筋商品に発売が絞られる結果、売れ行きは遅いが、芸術性が高いとされる作品の発売が抑制されるなど、多種多様なCDの発売・流通が困難になり、国民の多様な音楽ニーズが満たされなくなる。</p> <p>◇また、多くの新人作家や新人アーティストが作品をCDとして発表できる機会が減少するため、日本の音楽文化の発展が疎外される。</p> <p>◇中小のレコード店の経営が難しくなり、消費者が身近にCD等を購入する機会を失い、音楽文化の普及振興面での影響が大きい。</p>	<p>◇物の値段にコストが考慮されるのは、当然。また、再販が認められない他のほとんどの商品では、再販はコストと値段を上昇させるから望ましくないと考えられている。</p> <p>◇再販以外の商品をみても、必ずしも流通コストがダイレクトに価格に反映されるとは限らない。</p> <p>◇国民の多様な音楽ニーズがあれば、需要が存在し、それに相応しい価格で、CDも需要のあるだけ売れる。</p> <p>◇再販がないと、新人作家や新人アーティストが出てこれないとすれば、再販制のない諸外国では、新人が登場しないことになる。現実には、再販のない諸外国から世界に通じる優れたアーティストが、統々と多数登場している。日本においても、若手アーティストからはもっと安く販売したいのに再販制はCD価格を硬直的にしているとの不満が聞かれることがある。</p> <p>◇再販制により中小レコード店が画一化していく売れ筋の商品しか置いていないことのほうが文化の普及・振興にとってはマイナスである。</p> <p>◇中小企業者の救済は、他の業態同様、中小企業対策として対応すべき。</p>

第3回 FMフォーラム開催!

7月18～19日の2日間に亘り、東京都港区の八芳園・都ホテル東京において、FMフォーラム実行委員会主催、当協会・社団法人音楽出版社協会後援による第3回FMフォーラムが開催されました。

FMフォーラムは、音楽を通じて密接に結び付いているFMラジオとレコードの両業界の更なる信頼関係の構築と発展を目的とし、両業界が一堂に会し、ビジネス環境作りについて話し合う場として、毎年開催されているものです。

今回のパネル・ディスカッションは、テーマ選択の幅を広げ、より深い意見交換ができるようになり、以下の10のテーマに沿って、活発な議論が展開されました。

「今、エリアが面白い」
（エリア発のヒット）
「激論!! 本音のぶつけ合い」
（FMの現状と今後
「スーパーヒットへの道♪ Wミリオ
ン・ワールドへようこそ」
（洋楽マーケット分析&戦略
「喋り出したらトマラナイ」売れっ子DJのここだけの話）



「こんな番組が作りたい」
（番組制作会社パネル）
「朝からロックンロール」
（ロックがかかる環境作り
「エニシングOK！」ヒット・トラ
イアンダル大爆発」
（ディーラー・パネル）
「ヒットへのアプローチ♪曲、それともアーティスト？」
（音楽出版社パネル）
「俺にも言わせろ！」
（FM制作現場レポート
「ヒット!! そこが知りたい」
（プロモート現場レポート）
「文化立国をめざす」が、開催されまし
た。

当日は、櫻内義雄音楽議員連盟会長をはじめとする音楽議員連盟「芸術文化の夕べ」実行委員として尽力された国會議員の先生方や、音楽議員連盟振興会議に参加する音楽、演劇、舞踏、演劇等の舞台芸術、芸能関係諸団体から多数の方々が出席されました。

プログラムは岡崎友紀さんの司会で進行し、櫻内会長、吉田茂文化庁長官等来賓の方々の挨拶の他、山本邦山氏出演による邦楽の記念演奏「信濃の抒情」や、平野忠彦、佐々木典子、宇佐美瑠璃各氏出演による「オペレッタの花束」（日本オペレッタ協会制作）の上演も行われ、芸

音楽議員連盟20年、新たな飛翔へ 芸術文化の夕べ開催



音楽議員連盟の結成20周年を記念して、6月27日（木）、東京都千代田区の帝国ホテル「孔雀の間」に於いて、音楽議員連盟・「芸術文化の夕べ」実行委員会主催、当協会・（公）日本音楽著作権協会・（公）日本芸能実演家団体協議会・「文化立国・文化省設立を推進する会」協賛による「芸術文化の夕べ～21世紀に向かへ文化立国をめざす～」が、開催されました。

また、当協会からは、高野会長が挨拶を行い、「文化立国実現のためにも、レコード、音楽用CDの再販制度存続を」と訴えました。

なお、音楽議員連盟の連絡先は、以下の通りです。
〒100 東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第2議員会館334号室／島崎謙事務所 気付
TEL 03-3508-7084
FAX 03-3502-5864

ISRC/EDI ワーキンググループ 会議開催

6月28日(金)、ロンドンのIFI

PI本部に於いて、欧米レコード会社、SCCP、PPL、RIAJ、IFPIの代表者16名の出席のもと、ISRC/EDIワーキンググループ会議が開催されました。

この会議は、ISRC関連情報

(権利関連)データをEDI(電子データ交換)フォーマットによって、国際的なISRC関連情報のやり取りを行うためのフォーマット及び適用項目の検討を行うもので、今回で

5回目の開催となります。

今回の会議で、これらの基本的な方向付けがほぼ決定致しました。

今後は、次の段階に進むため新しくISRCプロモーションを目的とする別のワーキンググループを発足させ推進に当たる事となりました。

今後、日本レコード協会では、各レコード会社からCD(コンパクトディスク)を収集し、ISRC関連データのデータベース構築およびISRCの精度の向上を図ることとなります。

再販問題で 社民党の国会議員に 協力要請

再販擁護運動の一環として、かねてより電機連合を通じて申し入れを行っていた電機連合顧問の4氏(社民党国会議員)との会談が、去る6月26日に実現し、当協会より再販問題に関する状況を説明するとともに今後の協力要請を行いました。

当日は、協会からは高野会長をはじめ、再販問題プロジェクト座長乙骨理事・同委員神谷氏、木村専務理事等が出席。また電機連合顧問の中村正男衆議院議員・松前達郎参議院議員・大畠章宏衆議院議員及び薬科満治参議院議員秘書辻本啓二氏のほか、小貫高義レコード労組協議会議長・大福真由美電機連合局長・関和幸電機連合中央執行委員が同席しました。

会談は冒頭高野会長が、再販制度によって安定した市場が形成され、レコード業界が音楽文化発展のため寄与してきたことを強調するとともに規制緩和問題にも触れ、制作・流通等の面で業界がいかに世界に開かれているかを、計数を交えて説明しました。続いて乙骨理事が『商業用レコードの再販制度存続に関する

要望書』に基づいて、著作物である音楽商品の意味や重要性を説明し、再販制度の必要性を論理的に主張。

特に、「安ければ売れる」かという問題については、毎年行っている廃盤セールの実績を踏まえて、実情を説明し理解を求めました。また「自由にして公正な競争」が行われる条件として、私の録音や海賊盤問題、並行輸入問題などの解決の必要性を訴えました。

一方、国会議員からは、流通の実態やビデオ商品との違い、时限再販の問題などについて質問があつたほか、いいものを安く消費者に提供するための努力を、業界がいかに進めしていくかなどについても意見交換を行いました。

当日は、事前に提出してあつた要望書に基づいて、当協会は「商業用レコードの再販制度存続に関する要望」と、送信権・演奏権・輸入権を取扱めた「レコード製作者の権利保護に関する要望」を説明し、出席者の理解と協力を求めました。

日本のレコード 産業英語版 RIAJ Year Book 1996 発行

『日本のレコード産業1996年版』の英語版である『RIAJ Year Book 1996』が、完成致しました。本パンフレット入手をご希望の方は、当協会業務部までお問い合わせ下さい。

自民党「教育・文化 スポーツ関係団体 協議会」に参加

自民党が今春設立した「教育・文化・スポーツ関係団体協議会」(座長・堀越克明)日本私立中学高等学校連合会会長・同委員会委員長・小野清子参議院議員)の初会合が去る7月15日に開催され、当協会から木村専務理事が出席しました。この協議会は、各種団体の提言・政策要望等を迅速かつ効果的に政治の場に反映

させるとともに相互の理解と連携化を図ることを目的に、30団体余りによって構成されたもので、音楽業界からは当協会会長が幹事として名を連ねています。

今年で創立25周年となる(株)日本ビデオ協会は、創立記念日である7月21日より、(株)日本映像ソフト協会へ名称を変更しました。

THE RECORD 1996 AUG. 4

日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成8年6月度（96年5月21日～96年6月20日）のヒットチャートデータがまとめました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
■邦楽・洋楽合同シングル 5位			
1.	You're my sunshine	安室奈美恵	(AVT)
2.	LA・LA・LA LOVE SONG	久保田利伸 with ナオミ・キャンベル (SME)	
3.	Hey! Ladies & Gentleman	TRF	(AVT)
4.	BEAT YOUR HEART /STAY GOLD V 6		(AVT)
5.	愛の言霊～Spiritual Message	サザンオールスターズ	(V)
■洋楽シングル 5位			
1.	YOUR SONG	エルトン・ジョン	(MME)
2.	TO LOVE YOU MORE	セリーヌ・ディオン with クリスティー&カンパニー (SME)	
3.	ドゥビ・ドゥビ	ミー・アンド・マイ	(TO)
4.	ホテル・カリforallニア	イーグルス	(WJ)
5.	イフ・アイ・ハド・ウイングス	ヴァネッサ・ウィリアムス	(MME)
■邦楽・洋楽合同アルバム 5位			
1.	LOVE BRACE	華原朋美	(PI)
2.	Only Good Summer	TUBE	(SME)
3.	Vanity Fair	松田聖子	(MME)
4.	FAKE STAR	黒夢	(TO)
5.	NOW 4	クイーン 他	(TO)
■クラシックアルバム 5位			
1.	恋人達のクラシック 「ロング・バケーション」より	オムニバス	(SME)
2.	アーデージョ：カラヤン	ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 /ウィーン・フィル (PO)	
3.	バヴァロッティ・マイ・ワールド	バヴァロッティ	(PO)
4.	アーデージョ：カラヤンII	ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 /ベルリン・フィル (PO)	
5.	ピーターと狼／象のハバール	いしだ憲成(ナレーション) :ケントナガイ指揮 (WJ)	
■洋楽アルバム 5位			
1.	NOW 4	クイーン 他	(TO)
2.	LOAD	メタリカ	(SME)
3.	18 TIL I DIE	ブライアン・アダムス	(PO)
4.	メイヤ	メイヤ	(SME)
5.	DANCEMANIA I	E-ROTIC 他	(TO)

*日本コロムビア(C)／ピクターエンタテインメント(V)／キングレコード(K)／ティチク(TE)／ボリドール(PO)／東芝EMI(TO)／日本クラウン(CR)／徳間ジャパンコミュニケーションズ(TJC)／ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)／マーキュリー・ミュージックエンタテインメント(MME)／ボニーキャニオン(PC)／ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)／エポロン(AP)／フォーライフレコード(FL)／バップ(VAP)／トーラスレコード(TA)／ボリスター(PS)／アルファミュージック(AL)／キティエンターブラザーズ(KT)／ファンハウス(FUN)／イーストウェスト・ジャパン(EW)／BMGピクター(BV)／NECアベニュー(NA)／メルダック(ME)／TDKコア(TDK)／メディアレモラス(MR)／トイズ・ファクトリー(TF)／ハンドメイド(BC)／ハイオリニア(LDC)／MCAピクター(MV)／ロックイットレコード(RO)／エイベックス・ティー・ティー(AVT)／ソウルレコード(ZA)／ルームスレコード(BM)／ビッグラムレコード(BG)／ワン・アップ・ミュージック(EP)／カッティング・エッジ(CE)／ヴェルファーレ(VF)

6月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

6月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

■アルバム(19作品)

【邦楽】

- 4ミリオン
globe/globe (AVT)
- 2ミリオン
LOVE BRACE／華原朋美 (PI)
- プラチナ
Only Good Summer/TUBE (SME)
夢で逢えたら/RATS&STAR (SME)
- ゴールド
Vanity Fair/松田聖子 (MME)
FAKE STAR/黒夢 (TO)
「ロング・バケーション」オリジナル・サウンドトラック/CAGNET 他 (TO)
FATHER'S SON/浜田省吾 (SME)

【洋楽】

- 2ミリオン
青春の輝き～ベスト・オブ・カーベンターズ
/カーベンターズ (PO)
- ダブル・プラチナ
DANCEMANIA 1/E-ROTIC 他 (TO)
- プラチナ
メイヤ/メイヤ (SME)
NOW 4/クイーン他 (TO)
- ゴールド
GREATEST HITS
/グロリア・エステファン (SME)
ペイン・キラー/ジューダス・プリースト (SME)
ファー・ザン・ラヴ+1/ダイアナ・キング (SME)
LOAD/メタリカ (SME)
ノーベディ・エルス/ティク・サット (BV)
ヒア・ウイ・ゴー・アゲイン/バハ・メン (TF)
18 TIL I DIE/ブライアン・アダムス (PO)

■シングル(14作品)

【邦楽】

- トリプル・プラチナ
LA・LA・LA LOVE SONG
/久保田利伸 with ナオミ・キャンベル (SME)
ALICE/MY LITTLE LOVER (TF)
- ミリオン
You're my sunshine/安室奈美恵 (AVT)
愛の言霊～Spiritual Message
/サザンオールスターズ (V)
- ダブル・プラチナ
心を開いて/ZARD (BG)
- プラチナ
Hey! Ladies & Gentleman/TRF (AVT)
- ゴールド
命は燃やしつくすためのもの/布袋寅泰 (TO)
アジアの純真/Puffy (SME)
ララサンシャイン/森高千里 (EP)
旅まくら/天童よしみ (TE)
ゼロから歩き出そう/ZERO (BV)
君のKissしか欲しくない/高橋克典 (WJ)
BEAT YOUR HEART/STAY GOLD
/V 6 (AVT)

In the future/hitomi (AVT)

世界の話題

■ベルギー

プラチナ・ヨーロッパ・アワード・ディナー

7月11日、ブリュッセルで第一回プラチナ・ヨーロッパ・アワード・ディナーが開催されます。

同賞は、欧州全体で100万枚以上の売上げを記録したアルバムに対して、欧州委員会会長のジャック・サンテ氏から贈られます。

1990年代半ば、ヨーロッパが世界最大で、文化的に最も力強い市場となつたことを記念するものです。ディナーに出席するアーチストは、欧州で突出した成果を上げ、彼等のレコードは、今までにないスケールで国境、言語、大陸の差を超えて、134億ドルの売上げを示しました。

受賞資格を得た96のアルバム（うち2/3がヨーロッパのアーチスト）は、合計で1億7,000万枚の売上げになります。

このディナーは、IFPI（国際レコード産業連盟）がスポンサーとなり、各レコード会社の幹部、EUの政策担当者、世界のメディア関係者を含めて300名のゲストを招いて行われます。

（IFPIプレス '96.7.1）

■オーストラリア

価格紛争が再燃

6年前、価格調査委員会のアラン・フェルス氏は、並行輸入規制の緩和を求め、強力なロビー活動を展開しました。彼の試算では、6大レベルが排他的な輸入権を失えば、フロントラインCDの価格は最高で10%引き下げられます。

しかし、オーストラリア・レコ

ード協会（ARIA）のロビー活動の結果、昨年、政府はこの主張を却下し、6大レベルは、その代わり、国内アーティストの育成のために2億ドル以上の投資することになりました。

今年3月の政府交替で、この問題が蒸し返されました。新しい芸術・通信大臣のアルストン氏は、昨年の政府決定に非常に批判的でした。

最近のインタビューでフェルス氏は、「前政府はレコード会社と強く結び付き、消費者の利益を無視していた。」と批判しました。他のインタビューでは、「メジャー社は、排他的輸入制度で国内の消費者を食い物にしており、規制緩和を訴えた我々の報告を撤回するために数十億ドル費やした。」と述べました。

これに対し、ARIAは、「6年間の活動を通じて100万ドルを使ったというような事実はない」と反論し、以下のように述べました。
「私たちは、政府関係者に対し、レコード音楽に付加される『贅沢品』としての22%の売上税に反対する反対運動を展開していく意向を示した。政府はこの税から年間1億2,000万豪ドル（9,500万米ドル）の収入を得ている。音楽業界の多くの部門が、この税率の引下げこそが価格を下げる重要な要素であると思っている。税率引下げで、5~10%売り上げ増加を予測する関係者もいる。レコード会社が価格の値下げに積極的であるため、昨年から今年へのレコード販売額は15%程度伸びも予測されています。」

この問題の再燃は、数か月前のメジャー社の1社が代表的な新譜を74セント値上げしたこと端を

発しています。

ある経済専門誌には、30ドルの壁の崩壊で「音楽は死んだ」と分析し、政府がメジャー社の独占を中止とすることを要求し、併せてアメリカからのインターネットによる安価な音楽購入を奨励しています。」

メジャー社は、フェルス氏に対し失望よりむしろ怒りを感じています。

「市場全体の中で、他の分野における著作権法の重要性が認識されているのに、この問題が、永い間著作権の重要性として理解されないのは、我々として残念なことである。」とレコード会社の幹部は述べています。

また、ARIAは、この状況について、「私たちは、前進しようと押し戻される。6年以上も業界が商業的にこのような過程を辿ることは、意味のことである。」

次世代に向けて業界が最重要事項として取り組むべきことは、送信権、スーパーハイウェイ基盤、海賊版、そして豪州の地域的な役割である。欧州の存在を無視した『リンゴとオレンジ』の小売価格の比較のような議論から我々自身を守らなければならないので、もう一度、全てが中断するような破壊的な状況が降り懸かってくる。」と述べました。

フェルス氏が選挙運動中に協議をしたアルストン氏は、著作権法改正の審議過程の終りに、レコード業界とレコードの価格引下げ団体からの提案を求め、業界との首脳会議も要請しました。また、同氏は、売上税の引下げを否定し、並行輸入規制の撤廃には拒否する意向を示しました。

（ビルボード '96.6.29）

会議メモ（主なもの）

（7月1日～7月31日）

- 7・1 著作隣接権審議会
- 7・9 洋楽企画専門部会
- 7・9 法制・技術合同会議
- 7・9 技術部会
- 7・9 著作権部会
- 7・10 営業部会
- 7・10 レコード制作基準倫理委

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 7・11 洋楽部会 | 7・22 ビデオ部会 |
| 7・11 資材専門部会 | 7・23 宣伝部会 |
| 7・11～12調査統計部会 | 7・23 廃盤セールプロジェクト |
| 7・11～12労政部会 | 7・24 洋楽宣伝専門部会 |
| 7・17 邦楽制作部会 | 7・25 著作隣接権審議会・作業部会合同会議 |
| 7・17 業務委員会 | 7・26 理事会 |
| 7・17 情報システム部会 | 7・26 再販プロジェクト |
| 7・22 二次使用料委員会 | 7・29 日レ商懇談会 |
| 7・22 I S R C D B P | 7・31 J A S R A C 委員会 |

1996年 6月 レコード生産実績

数量：千枚・単位

金額：百万円

表1. オーディオディスク

		6月 実績						1996年(1月～6月) 累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
C	邦	11,193	30	93	6,888	14	91	86,628	39	112	54,498	21	113
	セントラル	74	0	21	43	0	34	1,819	1	112	1,040	0	149
	合計	11,267	30	91	6,931	14	90	88,447	40	112	55,537	21	113
D	邦	17,709	48	104	30,918	62	105	80,815	37	104	133,888	51	100
	セントラル	8,062	22	81	11,694	24	78	50,434	23	104	72,916	28	101
	合計	25,771	69	95	42,612	86	96	131,249	60	104	206,804	79	100
E	邦	28,902	78	99	37,806	76	102	167,442	76	108	188,386	72	103
	セントラル	8,137	22	79	11,737	24	78	52,253	24	104	73,956	28	101
	合計	37,038	100	94	49,543	100	95	219,696	100	107	262,341	100	103
F	邦	124	0	257	160	0	266	249	0	185	325	0	163
	セントラル	13	0	370	19	0	372	78	0	68	118	0	52
	合計	137	0	264	178	0	274	326	0	132	443	0	104
G	邦	29,026	78	100	37,965	76	102	167,691	76	108	188,711	72	104
	セントラル	8,149	22	79	11,756	24	78	52,331	24	104	74,074	28	101
	合計	37,176	100	94	49,721	100	95	220,022	100	107	262,785	100	103

表2. オーディオテープ

		6月 実績						1996年(1月～6月) 累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
H	邦	1,687	99	79	1,875	99	97	11,132	99	96	9,771	98	101
	セントラル	19	1	244	21	1	202	125	1	87	162	2	106
	合計	1,706	100	80	1,895	100	97	11,257	100	96	9,932	100	101
I	カートリッジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J	邦	1,687	99	79	1,875	99	97	11,132	99	96	9,771	98	101
	セントラル	19	1	244	21	1	202	125	1	87	162	2	106
	合計	1,706	100	80	1,895	100	97	11,257	100	96	9,932	100	101

表3. 複合型CD(CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

		6月 実績						1996年(1月～6月) 累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
K	邦盤	5,584	100	135	1,609	100	103	36,856	100	203	11,406	98	123
	洋盤	2	0	9	1	0	2	71	0	64	224	2	135
	合計	5,586	100	135	1,610	100	100	36,927	100	202	11,630	100	123

表4. ビデオレコード

		6月 実績						1996年(1月～6月) 累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
L	ディスク	1,162	43	86	3,269	38	85	6,413	38	91	18,000	34	86
	テープ	1,564	57	92	5,326	62	109	10,415	62	100	35,544	66	95
	合計	2,727	100	89	8,595	100	98	16,827	100	97	53,544	100	92

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

		6月 実績						1996年(1月～6月) 累計					
		数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
M	オーディオ	38,881	82	93	51,616	83	95	231,279	81	106	272,717	81	103
	複合型CD	5,586	12	135	1,610	3	100	36,927	13	202	11,630	3	123
	ビデオ	2,727	6	89	8,595	14	98	16,827	6	97	53,544	16	92
合計		47,193	100	97	61,821	100	96	285,033	100	113	337,891	100	101

備考 1. 本年実績は、会員会社「30社」の集計である。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

オーディオレコード新譜数の推移

本号は、1年間に発売されるオーディオレコードの新譜数の推移を図と表により紹介します。

図 種類別オーディオレコード新譜数の動向

単位：枚(巻)

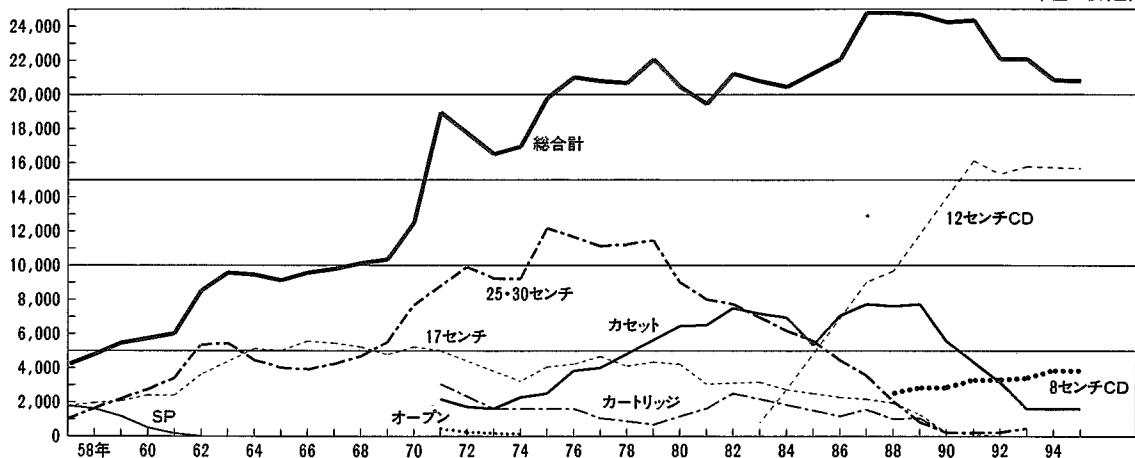


表 種類別オーディオレコード新譜数の推移

単位：枚(巻)

西暦(昭和) (平成)	ディスク					テープ			合計
	S P	17センチ	25・30センチ	8センチCD	12センチCD	カセット	カートリッジ	オープン・リール	
1957(昭32)	1,673	1,651	1,070						4,394
1958(昭33)	1,451	1,789	1,493						4,733
1959(昭34)	964	2,074	2,202						5,240
1960(昭35)	414	2,433	2,769						5,616
1961(昭36)	139	2,475	3,483						6,097
1962(昭37)	15	3,425	5,187						8,627
1963(昭38)	0	4,231	5,281						9,512
1964(昭39)	0	5,053	4,379						9,432
1965(昭40)	4,954	4,111							9,065
1966(昭41)	5,414	4,030							9,444
1967(昭42)	5,416	4,366							9,782
1968(昭43)	5,382	4,704							10,086
1969(昭44)	4,807	5,451							10,258
1970(昭45)	5,159	7,346							12,505
1971(昭46)	5,006	8,415			2,162	2,933	295		18,811
1972(昭47)	4,378	8,884			1,834	2,353	211		17,660
1973(昭48)	3,818	9,186			1,767	1,781	157		16,709
1974(昭49)	3,286	9,210			2,437	1,821	106		16,860
1975(昭50)	3,930	11,198			2,720	1,816	23		19,687
1976(昭51)	4,042	11,452			3,614	1,746	15		20,869
1977(昭52)	4,681	11,075			3,891	1,110	26		20,783
1978(昭53)	4,021	11,185			4,607	915	15		20,743
1979(昭54)	4,233	11,358			5,526	818	3		21,938
1980(昭55)	4,049	8,851			6,393	1,270	1		20,564
1981(昭56)	3,224	8,119			6,504	1,672	0		19,519
1982(昭57)	3,224	7,965			7,674	2,667			21,530
1983(昭58)	3,246	7,052			788	7,277	2,543		20,906
1984(昭59)	2,761	6,503			2,097	7,047	2,133		20,541
1985(昭60)	2,668	5,750			4,546	6,504	1,845		21,313
1986(昭61)	2,535	4,593			6,719	6,768	1,310		21,925
1987(昭62)	2,547	3,661			8,772	7,872	1,520		24,372
1988(昭63)	2,066	2,299		2,468	9,053	7,671	1,164		24,721
1989(平1)	993	528		2,780	12,155	7,691	642		24,789
1990(平2)	155	198		2,549	14,203	5,655	276		23,036
1991(平3)	0	229		2,933	16,451	4,188	160		23,961
1992(平4)	4	350		2,502	15,135	3,049	24		21,064
1993(平5)	M D	9	439		2,556	15,697	2,362	0	D C C
1994(平6)	177	258		2,761	15,527	2,142		65	20,930
1995(平7)	159	245		2,592	15,722	2,015		64	20,797

(注) 94年から17センチと25・30センチの区分がなくなりました。